

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
1	イングリッシュキャンプ事業補助金	57	103	32	192	38	改善	⇒ 補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 ALTだけでなく市内在住外国人の参加など内容について検討されたい。参加中学生の数を増やしつつ活発な活動となるよう検討されたい。	▶参加中学生の人数が少ない。参加した中学生の感想文が読んでみたい。 ▶小学生も英語を取り入れることになり、国際理解を深めることは大変必要になってくると思う。現在、黒磯地区に会員の偏りが見られるので、広く市民に周知し、全中学生または小学生を対象に行うのであれば補助は必要と思う。 ▶将来に向け継続したいイベントと考えるが、中学生の参加増に向けた工夫が必要なのではないかと思われる。 ▶国際交流協会運営補助に統合して一括補助としてどうか。そうすることで協会がより効果的な開催方法を検討できると思われる。 ▶趣旨は良いと思うが、もっと市内在住の外国人の方に参加してもらい、中学生と交流出来るような場になればよいと思う。 ▶事業内容としては必要なものと考えられるが、参加可能な人数が限られている。本来の目的からしてもより多くの中学生が参加できることが重要。
2	男女共同参画を推進する団体の連絡協議会運営費補助金	68	108	38	214	42	継続		▶フォーラムの委託金額が実情より少なく重荷になっている感がある。実態に合った委託金額とすべきである。 ▶家族をターゲットにしたローカルな活動展開も大切では。差別撤廃だけでなくDVや児童虐待対策も視野に入れたものになるのではないかと。 ▶研鑽を重ねることにより本市の審議会等委員に多くの会員が選出されており、活躍の場を広げている。 ▶事業活性化のためにも会員拡大の推進を。
3	統計調査推進協議会補助金	47	77	28	152	30	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 会員は黒磯地区に偏りがみられ、内容も当初設置した時の意味合いがなくなっている。会のあり方、内容について再度精査すべき。	▶統計調査は市にとって重要なことと思う。しかし、地域の偏り、事業費の使い方には疑問があり、県外視察等参加人数に対して多かったり、調査員の確保のための使用が見られなかったりするものは、今後見直しが必要と思う。ただ、会報については、継続する方法を考えていかなければならないと思う。 ▶収入に占める負担金の額は多いが、ほとんどが懇親会会費と思われる。補助金のほとんども懇親会用と思われる。 ▶調査員は必要であり、推進協議会もあって然るべきとは考えるが、費用の大半が県外研修であり参加者も極めて少ない。総会も会員の半数ほどであり、調査への会員参加も多くはない。繰越金も多く自立可能であると思われる。 ▶調査員の拡大を目標にするのであれば会員の範囲の拡大も当然視野に入れるべきである。旧黒磯地区のみならず市全体に会員・活動を拡大すべきと考える。
4	統計調査推進協議会全国統計大会参加補助金	43	58	25	126	25	廃止	⇒社会情勢や市民ニーズに適合せず、必要性が薄い。 【附帯意見】 大会は1日であり、協議会の中で賄えると思われる。	▶全国大会の旅費の補助は支出すべきと思うが、そのために「統計調査推進協議会」が今の形で存続するのは疑問である。 ▶参加することが研鑽に必要なものであれば必要と思うが、参加後、調査員全員への報告及び研修として伝達するまで行うのであれば、補助をし大会への参加をして欲しいと思う。 ▶大会は1日であり、協議会の中で賄えるのではないかとと思われる。 ▶会計や繰越への評価はできず。 ▶この補助金により市の統計調査全体に資する事ができるとは考えにくい。大会に参加する自己負担を抑えることができるのはよい。
5	板室地区旅館ホテル等防火安全対策協議会補助金	33	69	14	116	23	廃止	⇒交付基準に不適合の事業や団体への補助である。 【附帯意見】 板室地区に限定した補助をすることに公平性・妥当性が見出せない。本来旅館等の防災は自らやるべきものであると思われる。	▶多数の人の安全・安心を守ることは当然のこととして、税金を投入しなくても自らが行わなければならないことと思う。多くの宿泊施設が資金を出し合えば運営できると思うので、補助金の必要はないのでは。 ▶旅館等の防災は自主的に行うべきと思われる。他地区の観光地には同様の補助金は無い。 ▶ホテル、旅館、会社、自治会や様々な施設などは、消防団等の協力ももらってそれぞれで実施しており、補助金はそぐわない。 ▶防火安全は重要だが、本来は自分たちで防火を行うべきであり、特に補助を出す理由は見当たらない。 ▶限られた地域が対象となっており、市の中でも同様の地域にも補助金を出すべき。また、市が補助をするべきかどうか再考の必要があるのではないかと。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
6	連合消防団運営補助金	47	77	23	147	29	廃止	⇒会計処理、補助金の使途が適切でない。 【附帯意見】 活動が少なく使途の大半が視察研修となっている。視察研修は各団各部でも実施されており不要である。幹部会のみ行政で行えば補助金は必要ないと考える。	▶幹部会の活動も少なく、主に視察研修に補助金が使われているのは疑問。交通手段として市有バスを使用しているのに、費用がかかりすぎており、毎回行う必要があるかも疑問。 ▶幹部のみ行政で開催すれば補助金の必要はないと考える。 ▶合併後の3地区消防団の連携連合は必要なことであるが、費用の大半が視察研修に使われており、これらは各団各部でも実施されており不要である。合同視察が必要ならそれらの中で対応でき、幹部会は自立可能である。 ▶主に研修費が支出の多くを占めているが類似の補助も多く成果もなかなか見えない。各補助金を整理・統合してもよいのでは。 ▶消防団の連携強化は重要なので組織の存在意義を明確にし、増額まで見越した運営内容の見直しを要望する。
7	黒磯婦人防火クラブ育成補助金	55	87	35	177	35	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 活動しているのは役員のみであり、この形のままの組織が必要なのか疑問。会の有用性を含めて組織のあり方について検討されたい。	▶防災意識を持って活動することは大変有意義である。しかし、市民の女性全員が加入していることは知られておらず、周知することも必要である。また、地区への補助金の偏りが見られる。3地区の見直しと支部活動の報告も必要かと思われる。 ▶各地区に配分した運営費の使途が不明。婦人防火クラブの必要性はあるのか。 ▶家庭における防火に主婦の役割は大きい。肝心の各地区の活動が見えない。幹部の研修も重要であるが、自治会等と連携した地区の活動を重視すべきではないか。 ▶長年の補助で効果が見えない。また、会費の徴収が地区レベルでは行われているのか見えない。 ▶西那須野地区と比べ会員数はほぼ同数だが補助金額は倍以上である。削減の余地はないか。 ▶会の有用性を含めて活動内容の見直しまで見越した補助金の交付を要望する。
8	西那須野女性防火クラブ育成補助金	55	89	35	179	35	改善	※No.7黒磯婦人防火クラブ育成補助金と同じ。	▶黒磯では一人暮らし高齢者宅への訪問などもやっているようだがこちらではやっているのか。 ※その他黒磯婦人防火クラブ育成補助金と同じ。
9	塩原女性防火クラブ育成補助金	55	89	35	179	35	改善	※No.7黒磯婦人防火クラブ育成補助金と同じ。	▶旅館やホテルなども防災訓練を行っており、活動は活発な様子である。 ※その他黒磯婦人防火クラブ育成補助金と同じ。
10	施設振興公社運営費補助金	69	109	46	224	44	継続	【附帯意見】 補助金を交付しているのであれば、市としても市民の意見を聞いたりアンケートをとるなどして関与することも必要と考える。	▶施設を管理する上で必要な団体ではあるが、従事する人の採用や消耗品等の無駄使いなど補助金を交付しているのであれば少し市も関与（例えば市民の声を聞く・アンケートをとる等）することを検討することも必要ではないか。 ▶市の派遣職員も減少、補助金も減少している。一層の改善に取り組んでほしい。 ▶金額こそ大きいものの人件費や社会保険などがほとんどであり、支出は妥当といえる。 ▶民間団体への業務委託等を展望して欲しい。
11	納税貯蓄組合運営補助金	26	58	21	105	21	廃止	⇒交付基準に不適合の事業や団体への補助である。 【附帯意見】 税金を納めるのは当たり前のことであり、納税貯蓄組合の役割は終わったと考える。	▶納税貯蓄組合の使命は終わったと考える。 ▶税金を納めるために税金を使うことに疑問。一組合5人以上という規則も守られていないところまで補助金を出す意味が分からない。交付された補助金の使い方も不明なので、今後続けるかどうかを検討する必要性を感じる。 ▶会員に対する効果が無いとは言えないが、一部の地区のみの存在であり市民ニーズにも合致しないと考える。 ▶個人情報の概念が普及し、納税意識も高まっている昨今、補助の必要性は薄いのではないかと。支給要件を満たしていないのに支給されていることも少なくない様子である。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
12	防犯灯設置等補助金 (設置費補助金)	75	101	44	220	44	継続	【附帯意見】 費用対効果を鑑み、LED・ソーラー証明器具の設置について検討されたい。	▶相当部分の補助をしているが、自治会に任せることでより適切な設置がされていると思う。又、市職員の負担軽減に繋がっている。 ▶補助単価については適時チェックすべきである。 ▶今後に向けてソーラー・LED照明器具等の検討が必要と思われる。 ▶有意義かつ重要な事業であり、特に減点箇所はないが、それ故に補助という形ではなく市の直接運営でも良いかとも考えられる。 ▶防犯灯は必要不可欠であるが、業者によって見積額に差があり、自治体の負担額にも影響が出ているように思う。また、毎年申請するものであるか疑問に思う。 ▶今後の対応として、費用対効果を鑑みてのLEDもしくはソーラーへの切り替えを視野に入れておいて欲しい。
13	防犯灯設置等補助金 (維持管理費補助金)	75	101	46	222	44	継続		▶補助街灯のない自治会の街灯設置状況はどうなっているか。 ▶有意義かつ重要な事業であり、特に減点箇所はないが、それ故に補助という形ではなく市の直接運営でも良いかとも考えられる。 ▶地域によっては、100W以上が多い所もあり、維持管理には経費がかかることになるので、今後LEDの導入も検討するほうがよいと思われる。 ▶今後の対応として、費用対効果を鑑みてのLEDもしくはソーラーへの切り替えを視野に入れておいて欲しい。
14	自主防犯活動支援補助金	69	77	44	190	38	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 団体の規模等に差があり不公平が生じている。交付対象団体の規模の内容について見直しを検討されたい。	▶補助すべき内容であるが、団体の規模により団体の負担や補助装備内容に差が生じており、公平を図る必要がある。 ▶地域内防犯パトロールは行政区・学校・青年指導員等が一つになって行う必要があり、補助金交付要綱にある交付対象団体が「構成員が5人以上」となっているのは疑問である。 ▶コンセプトや活動内容は素晴らしいと思うが団体間に人数や規模、購入品目などに差や不公平感が生じている。 ▶自治体単位と団体単位とでは構成人数に差があり、負担額も大きくなることから、主旨の徹底をすることが大事だと思う。 ▶自治の観点からも周知の方法を工夫して、取り入れる自治会を増やす運動を展開して欲しい。
15	消費生活推進連絡会運営費補助金	59	94	29	182	36	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 参加団体が黒磯地区に偏っている。他地区への活動エリア拡大を検討されたい。	▶婦人会、生活学校等会員団体に補助を行っており自立可能である。又、消費生活センターと同じ事業内容でありセンター事業と連携、市内全域の活動とすべきである。 ▶参加団体が黒磯地区に偏っている。他地区への働きかけはあるのか。 ▶少ない金額で頑張っているという印象を受ける。むしろ金額を増やしてより活躍してもらおうことを考えても良いかもしれない。 ▶消費生活に関わることへの活動は有意義なものと思うが、連絡会という名のもとに活動しているのであれば、各加入団体からの会費があり、運営が成り立つものと思う。また、黒磯地区のみではなく、広く呼びかけることも必要ではないか。 ▶今以上の予算立てをしても活動内容の周知活動をすべきではないか。 ▶那須塩原市としての補助であるので、現補助地域以外の地域にも公平に拠出すべきである。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
16	生活学校運営費補助金	57	113	42	212	42	継続	【附帯意見】 黒磯地区だけの活動でなく、広く市内の団体への呼びかけを検討されたい。	▶継続して奨励したい活動であるが、西那須野地区、塩原地区との関係を求める。そのための補助増額が必要なら認めてよいと思われる。 ▶公的な団体というよりも私的な研究機関やサークルという印象を受ける。研修の成果を市民に還元する機会を増やせないものか。 ▶上部組織があるのであれば、黒磯地区だけの活動ではなく、もっと広く市内の団体に呼びかけることも必要と思う。継続するとしても運営の方法を見直す必要もあるのではないか。 ▶地域住民に対するPRの活性化を要望したい。
17	生ごみ処理機設置費補助金	59	107	44	210	42	継続	【附帯意見】 設置後の効果を公表するなどし、積極的なPRについて検討されたい。	▶ごみ減量に一定の効果があると考え、長年継続していることから、活用状況等を調査し、結果のPRや制度の見直し等を行う必要がある。 ▶ゴミの減量化に成功すれば、処理費用が安価になり市の財政に資するため、ここでの補助による出費は投資とみなしても良いと思う。 ▶今後もゴミの減量に有効であると思うので、続けたほうがよいと思う。PR方法を工夫し、多くの市民の知ってもらえるようにすることが必要である。 ▶市民への周知を積極的に展開して欲しい。 ▶補助額の見直しの検討が必要ではないか。
18	市をきれいにする市民運動補助金	59	83	27	169	33	改善	⇒補助金ではなく他費目に組替えるべきである。 【附帯意見】 啓発ポスターやごみ袋の支給等の事業は市直営で行うことができると思われる。推進本部の存在やあり方について検討されたい。	▶啓発ポスター等は市の行事として行ってもよいのでは。各団体や自治会は自主的に活動しており、キャンペーンなども観光協会などの活動を奨励、ごみ袋支給は市の事業として継続する等し、長期継続している推進本部の存在やあり方について検討すべき。 ▶この事業は補助金でなく事務局のある清掃担当課で実施できないか。 ▶補助という名目ではなく、市が直接行うべき事業と思われる。 ▶75団体の会員数は相当な人数になると思うが、機能しているのか疑問。事業内容の一部は、行政が行うほうが良いものもあると思うので、内容の見直しが必要と思われる。
19	ごみ処理施設建設地周辺整備事業費補助金	-	-	-	-	-	-	※平成22年度で終了	※平成22年度で終了
20	更生保護女性会補助金	57	97	42	196	39	減額	⇒繰越金、余剰金が多い。 【附帯意見】 合併によりできた組織と思われるが、各支部の余剰金も多く、自立も可能と思われる。	▶市更生保護女性会と各支部の行事はほとんど同じであり、各支部の繰越金は多いので補助の必要はない。 ▶活動は活発だが「本団体ならではの」といった取り組みや活動がもっと増えたいと思う。 ▶青少年の健全育成活動を行う団体としては大切な団体と思われる。しかし、本組織の保護司会から女性会への助成金も出ており、また、本部組織の繰越金も多いことから内部検討を行い、見直すことも必要と思われる。 ▶3支部の財政状況から自立可能とも思えるが、全国的な組織でもあり継続交付としたい。
21	身体障害者福祉会補助金	65	101	36	202	40	継続		▶ほとんど補助金のみで運営されているのではないか。 ▶スポーツや交流、レクリエーションなどももちろん大切だが、例えばハローワークなどとタイアップした資格や技能獲得、在宅でもできる仕事やバリアフリーな職場の情報交換なども活動に加えてみてはどうか。 ▶構成人員数に対して、様々な行事に参加する人が少ないのは、会員のニーズに合っているのかどうか。多くの会員が参加できるよう工夫が必要と思われる。分担金の額が多いことから活動・事業への補助金は必要と思われる。 ▶会員の増加も図り、一層の障害者福祉向上に努めて欲しい。そのためには補助金増額してもよいと考える。 ▶身体障害者手帳の交付者が増えている状況下にあるので、広報活動も含めてより効果的な事業にする必要があるのではないか。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
22	心身障害児(者)民間療育施設運営補助金	57	113	32	202	40	継続	【附帯意見】 現状のまま行政でバックアップしていくか、自立支援法に基づくサービスへの移行を促していくか2つの考え方があると思われる。今後の方向性についてよく精査し検討していくことが必要である。	▶自立支援法に基づく施設に通所児(者)を移行する働きかけも市として必要ではないか。 ▶利用者にとって施設が変わってしまうことは大きなストレスになってしまい不適応状態になってしまうことも予想されるため、施設の存続はやむを得ないと思われる。 ▶個別指導や療育訓練は障害者にとっては大変有効なことと思う。しかし、通所日以外は在宅生活をしていることから、月2回程度の通所より、もう少し進んだ方法として自立支援法への移行を検討する必要があると思われる。 ▶現状では社会保障の一環として継続せざるを得ない補助と考える。 ▶ニーズのある団体への柔軟な対応は重要である。
23	心身障害児(者)民間療育施設通所児(者)保護者補助金	57	107	36	200	40	継続	※No.22心身障害児(者)民間療育施設運営補助金と同じ。	▶障害者自立支援法ならば1割でサービスを利用できるため、このような補助金を設けても家族(保護者)の負担は小さくない。今後どうしていくべきかを保護者・施設・行政とできちんと話し合っていかなければならないと思う。 ▶障害の程度に合った個別指導や訓練は障害者にとってはとても有効なことと思う。年齢が高い者にとっては、今後の事も考え、徐々に自立支援法による福祉サービスを受ける方向に持っていくことも検討する必要があるのでは。ただ十分な時間が必要であり、行政との協議も必要と考える。 ▶現状では社会保障の一環として継続せざるを得ない補助と考える。 ▶ニーズのある団体への柔軟な対応は重要である。
24	NPO法人講演会補助金	71	105	38	214	42	継続	【附帯意見】 事業内容によって法人の負担額が違っているため、定額でなく内容によって補助額を変えるなどの検討も必要と思われる。	▶広く市民の知識や意識が向上するのはもちろん、精神障害者にとっても自分たちが理解されるというメリットがある。 ▶団体の活動は大変重要な役割を果していると思う。ただ、行事に関しては補助金を中心に企画されており、団体の負担額等の変動があり、基準が曖昧と感じられるため、今後の検討課題であると考えられる。 ▶行政が行う内容とも考える。一層支援強化して欲しい。 ▶交付額を増やしてももっと活発に活動すべきではないか。
25	母子寡婦福祉連合会運営費補助金	-	-	-	-	-	-	※平成22年度から廃止	※平成22年度から廃止
26	女性保護団体運営費補助金	73	107	40	220	44	継続		▶活動内容はその性質からどうしても目に入る機会が少ないが、社会的に必要であることは明らかである。 ▶DV被害者が増えている中、保護するだけでなく、自立支援もしていくには、多くの資金が必要と思われる。本市民も今後支援を受けることもあるかも知れない。行政がシェルター等を運営するのが困難であるならば、必要な補助金と思われる。 ▶必要な活動であり、費用の一端を担うのは当然と考える。 ▶啓蒙活動の活発化を図る必要があるのではないか。
27	幼稚園就園奨励費補助金(市単独分)	60	79	46	185	37	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 高額所得者など補助のない階層があってもよいのではないか。	▶補助対象者は高額所得者であり、補助金額の見直しが必要と思われる。 ▶全体から見れば補助金額は少なくないが、一人当たりで計算するとわずかな金額に思えてしまう。どこまで保護者の経済的な助けとなっているのか疑問である。 ▶保護者負担の軽減を図るための補助金であるが、補助がない階層があってもよいのでは。ただし、境界線上の家庭をどうするかは検討する必要があると思われる。 ▶補助の必要性、金額の効果に疑問を感じる。廃止を含め検討して欲しい。 ▶補助金交付の区分け、方法などは適宜検討が必要。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
28	わんぱく保育支援事業補助金	63	109	42	214	42	継続	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 一つ一つの事業について個別に補助すべきと思われる。また、放課後児童クラブとあずかり保育については、利用者全員が真に必要としている人なのか確認が必要と思われる。	▶様々な補助事業があり評価・判断が難しい。一つ一つの事業について別個に補助していくのが筋ではないだろうか。 ▶少子化傾向の中で、保育支援事業への補助は必要と思われる。しかし、預かり保育と放課後児童クラブに関しては確認と見直しが必要と思われる。 ▶子育て支援に一定の役割を果たしていると考えられる。 ▶補助金交付の区分け、方法などは適宜検討が必要。
29	シルバー人材センター運営補助金	71	111	44	226	45	継続		▶後高齢者の就業希望は多くなると見込まれる。受託事業の積極的開拓をすべき。 ▶少しずつでも補助金額・補助率を減らしていき自立に近づけるよう努力していくことが望ましいと思われる。 ▶孤立してしまいがちな高齢者の社会参加の推進や技術が生かせることで生きる意欲にもなることから高齢者福祉の充実にも繋がると思う。今後、技術の伝承も視野に入れた新しい取り組みや事業展開も検討してほしい。 ▶高齢者の生きがいや社会参加には一定の役割を果たしている。受託単価の低減、出来栄への向上等に努め、一層市民に喜ばれる存在になることを期待したい。 ▶補助金を得るのであれば、もっと広く告知して十分に活用してもらうスタンスで運営を進めて欲しい。
30	栃木県医師会塩原温泉病院地域医療交付金	69	99	44	212	42	継続		▶塩原地区は観光地、山岳地と特殊な土地柄であり地域医療に貢献していると思われる。 ▶地域の医療状況から救急診療の存続は必要不可欠であり、それを支援していくことは妥当と思われる。 ▶地域医療体制の円滑な運営のためには財政協力は不可欠なものであり、又、地方医療への医師不足とならないよう補助は必要と思われる。 ▶救急医療を中心に地域貢献はされているが、市内医師会への地域医療等協力交付金と整合を図る項目ではないか。 ▶同じ市内として医療過疎地域のフォローは義務であると言えるのではないだろうか。
31	経営体育成農地流動化奨励金	—	—	—	—	—	—	※平成22年度で終了	※平成22年度で終了
32	乳用牛群改良促進事業補助金	53	93	42	188	37	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 生乳は市の主産物であり必要な補助と考えるが、他市町、他団体とも協議し補助金の更なる有効的な使い方について検討されたい。	▶優良乳用牛を確保し、本市の酪農業経営に貢献することを期待する。 ▶役員報酬などの基準が各団体でバラバラである。統一とまではいなくても何らかのすり合わせが必要ではないか。 ▶組織及び活動事業もしっかり行っている。俊約できることは見直しをし、改良促進事業として酪農業経営の改善に有効に使うことを今後も望む。 ▶長年の補助で事業は確立しており、繰越金も比較的多く自立可能と思われる。しかし、市の主産物であり奨励に値する。他市町・団体と話し合いもっと有効な補助を検討してはどうか。 ▶繰越金の額からすると補助金の必要性に疑問がある。
33	和牛枝肉研究会事業費補助金	51	87	34	172	34	減額	⇒補助対象とすべきでない経費がある。 【附帯意見】 那須野農協の事業であり、補助の必要性について疑問である。食事代など私的な出費も多い。	▶那須野農協の事業であり補助をする必要があるのか。 ▶ほとんどの支出項目の用途がわからず、食事代など私的な出費も多い。補助の必要性が見受けられない。 ▶数少ない肥育生産者への補助であるが、用途においては検討を重ね俊約に努め、有意義な使用を考えて欲しい。 ▶ブランド地位向上に寄与していると思うが、本補助が必要なのか疑問である。 ▶農協ありきの補助対象となっているので、公共性に問題があるか。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
34	和牛優良精液利用促進事業費補助金	51	99	38	188	37	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 補助金交付後の成果が見えない。又、単価が違うものに対して一律の補助であるため交付額の内容について検討されたい。	▶補助の結果、優良和牛の生産高が把握出来ない。 ▶地域ブランドの推進は市の発展にも寄与するものと思われる。 ▶1本の補助額が少なく、補助金がない場合でも経済上困難とは思えないが、市を挙げて支援するのであれば、上限を決め、格差が出ない工夫が必要と思う。 ▶必要な奨励事業と思うが成果が見えない。成果指標を検討して欲しい。長年継続している補助であるが何時までも続くものなのか。 ▶農協ありきの補助対象となっているので、公共性に問題があるか。
35	和牛優良雌牛導入事業費補助金	57	105	40	202	40	継続	【附帯意見】 補助金交付後の成果が見えない。成果指標について検討されたい。	▶優良雌牛の購入は高額であり、補助がないと畜産農家の負担が大き過ぎてしまう。事業の継続や新規参入などを考えると補助の必要性は低くない。 ▶肉用牛の生産力を高めるには経済状況を把握し、適切な補助を行うことが大切である。 ▶必要な奨励事業と思うが成果が見えない。成果指標を検討すべきではないか。 ▶農協ありきの補助対象となっているので、公共性に問題があるか。
36	那須和牛宣伝事業費補助金	53	99	34	186	37	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 PRのため必要な補助と考えるが、宣伝事業の内容については検討すべき。また、永続的に交付するというのではなく、補助に一定の期間を決めるなどの検討も必要と思われる。	▶他市町からの補助もあるが、宣伝事業の内容はこれで良いのか。 ▶本来は農協やその加入者が負担すべき費用ではないか。 ▶生乳生産量本州一ということは、広く全国に知られるようになったが、肉牛生産は全国上位にもかかわらず知名度がいまいち低い。今後もPRするためには補助金の継続はやむを得ない。 ▶まずは市内に取扱い店を増やす等、市民へのPRにも努めてほしい。 ▶農協ありきの補助対象となっているので、公共性に問題があるか。また、効果を感じられる機会が少ないと思われるので、活発に宣伝活動を展開すべきではないか。
37	畜産フェア補助金	61	101	44	206	41	継続		▶前売り券が即日完売するほどの人気があり、本市の畜産のPRに十分寄与していると言える。 ▶年タイイベントの知名度は上がってきている。さらに農・畜産物消費の拡大に向けて継続することを望む。出店団体の中には、すでにフェアのために補助金を使用している所もあることから協力費の配布は見直す必要があると思われる。 ▶那須牛のPRや普及に効果があると思うが、前売り券はすぐに無くなると聞く。肉の販売等も検討してより市民へのPRに努めては。 ▶繰越金からすると補助金は必要ないのではないか。限定数を毎年超えてしまうのであれば、公益性の観点から準備の数量を増やすべきではないか。
38	塩原漁業協同組合補助金	55	102	46	203	40	継続		▶漁場管理に伴い観光、河川環境の保全に寄与していると思える。 ▶活動が単に水産業の振興のみならず、ひいては環境保全や観光振興にも一役買っている。 ▶自然豊かな本市の貴重な水産業であり、観光客誘致にもなる活動と思う。市が補助金を出している観光協会からの補助もあることから、システムの見直しを検討することも必要と思う。 ▶長期に亘る活動で、組織、事業共に育成されたものとなり、繰越金も多く補助継続は必要でないとも考える。 ▶収入額に比して補助金額は非常に小さい。補助金は必要なのか。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
39	有害鳥獣捕獲対策事業費補助金	47	86	38	171	34	改善	⇒類似目的補助との整理統合を検討すべきである。 【附帯意見】 自分たちの畑の見回りに日当を出すのは疑問。交付先が同じである野菜畑土壌消毒事業補助金との統合も検討されたい。	▶これくらいの事業は、各農家の自己防衛で出来ないのか。出役手当に使用されている部分が多い。 ▶業務そのものは不可欠である。ただ、用途に自分達への報酬が多分に含まれているのが気に掛かる。 ▶鳥獣による被害も多いと思うが、使用するものは農業が多いことから他の補助項目で補助をしているものと統合できないか検討してほしい。また、JAという大きな組織からの助成も多いことから見直しも必要と思う。 ▶同団体には別件で多額の補助を行っており、団体の繰越金も多く、整理統合を検討すべきである。 ▶自立自治の方向で進め補助金は減額していくべきではないか。
40	林道交通安全対策事業費補助金	59	109	40	208	41	継続		▶協働事業と思われる。 ▶交通安全のみならず、環境や景観の保全の意味でも有意義な事業であると言える。 ▶森林保全のための活動であり、労務費として使用することはやむを得ないと思うが労働人数、労働内容に差があり、一律補助というのは適しているのか疑問が残る。 ▶一般市民も利用する林道であれば継続を望む。 ▶塩原地区の様に補助金ではなく委託料支出の方向を検討すべきではないか。
41	商業活性化事業補助金	51	105	38	194	38	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 ⇒類似目的補助金と整理統合をすべきである。 【附帯意見】 創業支援塾の参加者全員が真に創業を目指す人なのか疑問。 商工会運営費補助金等の類似目的補助金との統合も検討されたい。	▶創業支援塾参加者は、真に創業を目指している人たちなのか。 ▶商工会には同様な事業があるが調整は出来ないのか。 ▶創業支援塾は参加者も多く、商業活性化につながってくるものと思われる。 ▶活性化には良い事業を行っているが、実際開業した人への補助も行っているのか。また、受講したが、その後については補助していないのであれば、ぜひそのために活用して欲しい。 ▶単独事業補助ではなく商工会運営補助に整理統合し、自主的活動として内容充実を図るべき。 ▶減少傾向にある地元企業数に歯止めをかけるべく、もっと活発な事業活動を継続更には拡大する必要があると考える。
42	地域交流賑わいづくり事業補助金	45	95	38	178	35	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 ⇒類似目的補助金と整理統合をすべきである。 【附帯意見】 イベント実施による賑わいは一時的なものであるため、事業内容については見直しが必要と思われる。 商工会運営費補助金等の類似目的補助金との統合も検討されたい。	▶事業参加者とは誰か。 ▶今年で5年の事業であるが、イベントと先進地研修で目的は達成されるのか。 ▶会議費などに多くの金額が使われている。こちらを事業費に回せばより充実した事業が行えるのではないだろうか。 ▶地域が限定されており、地域特産品のPRとしては目的達成がされていない。又、事業費の用途については、見直しが必要なものもあり、収入においては本会負担の変動が大きく、補助金の額の見直しにつながると考える。 ▶活性化事業と併せ、商工会運営補助に整理統合し、自主事業として工夫充実を図るべき。 ▶当初の目的は公益に資する内容なので交付金を増やすべき部分もあるが、達成する手段をもっと検討する必要があるのでは。
43	商店街活性化推進事業補助金	51	105	38	194	38	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある 【附帯意見】 イベント以外の方法での活性化についても検討されたい。	▶長期にわたる補助金であるが、市及び商工会は事業内容を見直す時期ではないか。 ▶西那須野地区内の商工業者のイメージアップに繋がっている事業であり、ひいては魅力的なまちづくりに貢献しているといえる。 ▶活性化するためのイベントではあるが、一時的なもので、年間通して行うものが望ましく方法の検討が必要と思われる。又、イベント以外の方法での活性化にも力を入れることが必要と思われる。 ▶単独事業補助ではなく商工会運営補助に整理統合し、自主的活動とすべき。 ▶一部だけの賑わいに留まってしまっている事業がある様なので、更なる周知活動等を検討し、公益性を高めて欲しい。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
44	商工振興事業補助金	49	87	34	170	34	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 経営支援事業については参加者も少なく、成果も見えてこない。事業の見直しが必要と思われる。	▶塩原地区の観光事業の衰退が著しいのだから、小手先の事業でなく根本的なてこ入れが必要なのではないか。 ▶講座の出席者数が少ない。 ▶類似メニューがあるので調整が必要。 ▶花ウエーブ事業は良い活動だと思うが、経営支援事業については成果が見えてこない。参加者も多いとは言えないようである。 ▶経営支援事業の講演会は、段々と参加人数が減り、意欲改革が見えてこない。又、負担金を操作することで、収支を合わせていると思えるので、補助額の見直しが必要と思われる。 ▶単独事業補助ではなく商工会及び観光協会運営補助に整理統合し、自主的活動とすべき。 ▶観光振興を実施目的としている割には広報部分が弱いのではないか。積極的に外部に展開して公益性を増して欲しい。
45	巻狩太鼓運営補助金	51	97	44	192	38	減額	⇒補助対象とすべきでない経費がある。 ⇒繰越金、余剰金が多い。 【附帯意見】 慶弔費などは別会計とすべきでは。繰越金も多く、自己資金も多いため将来的には自立も可能と思われる。今後は保存会として活動していくことも検討されたい。	▶備品の修繕は公費で見ているので、繰越金額が多いので減額してもよいのではないか。 ▶会費や謝礼金などの自己資金も多いため将来的に自立できる可能性は高い。繰越金も補助金とほぼ同じ程度の額である。 ▶会費及び出演謝礼で十分運営されるように思う。今後、保存会として活動していくことも検討し、市との関係も見直すとともに、経費の儉約・節約にも心がけてほしい。 ▶活発な活動でイベントには欠かせない存在となっている。自立できる団体に育成されているとも思えるが、今後の発展のため補助継続としたい。 ▶旧黒磯地区での活動が主体であることに変化が無いので、他の地区においても活発に活動を展開する必要がある。
46	巻狩踊りお囃子会運営補助金	51	99	44	194	38	減額	⇒補助対象とすべきでない経費がある。 ⇒繰越金、余剰金が多い。 【附帯意見】 繰越金も多く、自己資金も多いため将来的には自立も可能と思われる。今後は保存会として活動していくことも検討されたい。	▶備品の修繕は公費で見ているので、繰越金額が多いので減額してもよいのではないか。 ▶財政的には十分補助金なしで自立して行える状態である。活動は活発で、市のアピールや文化保存には大きな貢献をしているといえる。 ▶会費や出演謝礼等で運営できるのであれば、保存会として今後活動していくことも検討し、市との関係を見直す必要があると思う。 ▶団体育成は達成されていると思えるが、団体活動維持に必要な補助と考える。 ▶旧黒磯地区での活動が主体であることに変化が無いので、他の地区においても活発に活動を展開する必要がある。
47	那須塩原巨木奨励金	39	62	32	133	26	廃止	⇒社会情勢やニーズに適合せず、必要性が薄い。 【附帯意見】 20年間支払い実績がなく廃止すべきである。しかしながら全国的にも珍しい取り組みであるため、別な形での古木保存方法について検討されたい。	▶20年間も支払い実績がない。廃止すべき。 ▶すでに役割を終えた補助金だとは思いますが、全国的にも珍しい取り組みのようなので補助金ではなく、別な形で古木保存に取り組みないものか。 ▶保管管理には費用がかかると思うが、申請者が少ないのは額の問題なのか他に問題があるのか検討する必要があるのでは。 ▶交付が一時金であることで効果に疑問を感じる。又、銘木或いは残したい木など、対象を再考してはどうか。 ▶無くしてしまっただけ復活させることは難しい面もあるかと思う。該当が無ければ支出もないので、継続して設置しておいた方がいいが、活動内容等は要検討。
48	那須野ふるさと花火大会事業費補助金	61	113	40	214	42	継続		▶2年に一度の事業であり、また今年度は中止でもあり、事業内容を検討するよい機会と思われる。 ▶今後は市の経済状況を鑑みるに協賛金の確保が困難になってくるのが予測される。補助の必要性は高まっていくのではないだろうか。 ▶定着している行事であり、他の町からも補助を受けているので、今後もふるさと行事として継続してほしい。しかし、今後は、経済状況も不安定であることから、儉約・節約にも心がける必要があると思う。 ▶高額補助ではあるが、隔年実施でもあり継続が望ましい。 ▶花火大会実行委員会の構成メンバーも変化が無く、市民総意で上げる様な花火大会への進化が必要。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
49	都市計画道路青葉通り整備に伴うNTT-A型事業補助金	75	125	50	250	50	継続		<ul style="list-style-type: none"> ▶義務的なものであることから今後も継続していくものとする。 ▶借入金返済で平成24年度終了なので完済すべき。
50	水洗トイレ改造資金利子補給補助金(下水道特別会計)	71	114	46	231	46	継続		<ul style="list-style-type: none"> ▶市民が改造資金を借りやすくするためには、金融機関との連携も必要となり、今後も継続していくことが望ましいと考える。 ▶供用開始3年経過に対しても何らかの配慮をして一層の普及に努められたい。 ▶公益の観点からも一層の普及促進活動が望まれる。
51	水洗トイレ改造資金利子補給補助金(農業集落排水事業特別会計)	71	114	46	231	46	継続		<ul style="list-style-type: none"> ▶水洗化率向上のためには、今後も必要と思われる。 ▶供用開始3年経過に対しても何らかの配慮をして一層の普及に努められたい。 ▶公益の観点からも一層の普及促進活動が望まれる。
52	河川愛護会補助金	71	103	44	218	43	継続		<ul style="list-style-type: none"> ▶市民協働活動として良いのではないかと考える。 ▶市の河川保護に重要な役割を担っているといえる。 ▶美化と地域社会づくりへの効果を望むのであれば、団体だけではなく、広く市民にも参加を促し、市内美化運動を取り入れてもよいと思う。 ▶協働事業として環境整備に貢献していると推定する。
53	運動会補助金(小学校)	55	104	44	203	40	継続	<p>⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。</p> <p>【附帯意見】 学校行事として実施することから補助金でなく学校配当予算とすることについて検討されたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶継続すべき事業と考えるが、補助金ではなく学校配当予算とすべき。 ▶市補助金を配当予算で処理すべきである。塩原小中学校の合同運動会は教育上も経済的にも好ましい。 ▶補助の使途や内容については妥当と思われる。補助金額については一見公平なようでPTA支出との割合は各校でむしろ差が出ているようなので補助金額の割り出しについては再考の余地ありか。 ▶学校行事として必ず実施することから、補助金ではなく、教育費として配当することが望ましいと考える。又、事務処理の簡素化のためにも検討が必要と思われる。 ▶評価シートにもある通り、学校配当予算に切り替える等、既存のシステムから効率良いシステムに切り替えていく必要がある。
54	遠距離通学費補助金(小学校)	65	94	44	203	40	継続	<p>⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。</p> <p>【附帯意見】 補助額算出の距離の幅や徒歩通学生徒の場合には1家庭につき1交付するなど交付基準の見直しについて検討されたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶スクールバスが望ましい。ゆーバスの運行ルート変更で対応できる箇所はないのか。 ▶西小、千本松地区からの登下校は、市営バスの検討があっても良いかと思われる。 ▶趣旨・使途は適切であると言えるが金額算出基準がやや大雑把ではないだろうか。(例：4～5kmでは1万2000円・5km以上で倍の2万4000円など) ▶遠距離の徒歩通学には自家用車が使われていると思うが、公共交通機関利用の場合個々に費用がかかるが、自家用車は1台に数人乗れるため、一家単位の支給にはどうか。 ▶基準、要綱の見直しは適宜必要。
55	特別支援学校(学級)通学費及び帰省費補助金(小学校)	67	89	44	200	40	継続	<p>⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。</p> <p>【附帯意見】 特別支援学校に対する通学費・帰省費については国の制度により補助され申請もないことから特別支援学級の通学・通級児童のみを対象としてもよいのではないかと考える。又、実勢価格と合っていないことから燃料費の単価の見直しについても検討されたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶実態に即した要綱、単価等の見直しを行われたい。又、交付金額は負担軽減というほどのものではない。定額要素も検討してもいいのではないかと考える。 ▶燃料費を実勢価格に近づけるべき。 ▶評価シートにもあるが、基準が古い物のためむしろ金額は増やされるべきものではないか。 ▶特別支援学校在籍児童には十分な補助があり、申請が無いことから、今後は特別支援学級通級児童のみを対象とすることの検討が必要。又、現在の燃料費の変動に合わせた額の支給も検討が必要。 ▶現況に適した算出等、見直しを適宜進める必要がある。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
56	スポーツ等振興事業補助金	—	—	—	—	—	—	※平成22年度審査（重複）	※平成22年度審査済（重複）
57	総合的な学習推進事業補助金	—	—	—	—	—	—	※平成22年度審査（重複）	※平成22年度審査済（重複）
58	マイチャレンジ推進事業補助金	67	94	36	197	39	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 受入れ事業先の募集や結果の情報を公開するなどし、もっと積極的にPRすべき。また、費用の大部分を占める体験冊子の印刷を市内1本化するなど検討されたい。	▶継続すべき事業と考えるが、実施後の事業評価、学校間の情報交換など活動充実への余地があるのではないかと。又、経費の大部分を占めている印刷製本は市内1本化してはどうか。 ▶総合的な学習推進事業、活性化創造事業との整合性も図り、効果的な事業推進、教師の負担軽減等も併せて検討すると良いのではないかと。 ▶チャレンジ体験冊子に予算の半額以上が使用されているが、何か工夫はないものか ▶支出のほとんどが記録集作成費だが単価が高額すぎではないか。 ▶大変有意義な事業ではあるが、学級数割・生徒数割のどちらかでも良いのでは。又、記録を残すことについては、各学校とも製本に大半が使われており、他の方法を取り入れ、節約する工夫をするのも必要。 ▶補助金を使用するのであれば、現状より以上の公共性をもたせるために一般への募集、結果等の情報の公開など模索すべき。
59	学校活性化創造事業補助金	—	—	—	—	—	—	※平成22年度審査（重複）	※平成22年度審査済（重複）
60	体育祭補助金(中学校)	55	104	44	203	40	継続	※No.53運動会補助金（小学校）に同じ。	※No.53運動会補助金（小学校）に同じ。
61	遠距離通学費補助金(中学校)	65	94	44	203	40	継続	※No.54遠距離通学費補助金（小学校）に同じ。	※No.54遠距離通学費補助金（小学校）に同じ。
62	特別支援学校(学級)通学費及び帰省費補助金(中学校)	67	89	44	200	40	継続	※No.55特別支援学校(学級)通学費及び帰省費補助金（小学校）に同じ。	※No.55特別支援学校(学級)通学費及び帰省費補助金（小学校）に同じ。
63	童謡フェスタ交付金	42	86	22	150	30	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 入場者は関係者が多数を占めていると推測される。入場料を徴収することも検討し、補助額の減額も視野に入れ、改善が必要。	▶入場料を取れば自立できるのではないかと。又、広く参加団体を募り発表会の形でも目的にかなうのではないかと。 ▶各団体の発表の機会は良いが、ゲストに多額の補助金が使われ過ぎてはならないかと。ゲストを迎えるのであれば、入場料を徴収すべきではないかと。 ▶観客数から察するに合唱団員やその関係者以外の方（一般の方）の観覧はそれほど多くないと思われる。ゲストを招聘するならば広報なども必要では。 ▶参加団体の地域が片寄っていることと、運営費に会費は必要と思う。又、娯楽性が高いことからいくらかの入場料を徴収しても良いと思われる。 ▶受益者負担の金額が少ない。西那須野地区の団体の参加や一般観客への広報などが必要かと。
64	市指定無形民俗文化財補助金	61	99	40	200	40	継続	【附帯意見】 活動内容や収入・支出の方法が各保存会で異なるため、一律の補助ではなく交付方法について検討が必要。又、広く市民の目に触れる機会を設けることも検討されたい。	▶繰越金が多いが道具等の補修負担に必要であり、この程度の支援は必要である。 ▶繰越金の多い団体が見受けられるが、面や衣装などの積立金として処理してはどうか。 ▶各団体によって差異はあるが繰越金が多額の額計上されている団体が多い。物品の補修などに使うものもおそらく混じっていると思われるので、団体内で基金的なものを創設すればよいのでは。 ▶郷土芸能は今後も守っていくべきものである。各々の地域で収入・支出の方法が異なるので、補助金の交付方法を検討することも必要。又、補助金ではなく、何らかの方法で広く市民に知ってもらうことでもよいのでは。

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
65	市文化財保存事業費補助金	67	119	44	230	46	継続		<ul style="list-style-type: none"> ▶文化財に指定している以上保存に努める必要があり、1/2補助は適切なレベルである。 ▶文化財保存のためには必要な補助といえる。 ▶文化財の保存には費用がかかるが、補助率・上限額等も決められていることから今後も有効に使われることを望む。 ▶監査を受けることは出来ないのか。
66	黒磯文化会館自主事業運営費補助金	49	95	42	186	37	改善	<p>⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。</p> <p>【附帯意見】 鑑賞型事業で赤字の事業が見受けられる。市民のニーズを把握するためマーケティングの強化が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶育成・参加型もあり、又、文化振興の観点からも支援あって然るべきであるが、鑑賞型については大きい赤字にならぬよう十分な企画検討を行うべきである。 ▶鑑賞型事業に赤字幅の大きいプログラムがあるため、検討が必要である。 ▶演目によっては入場者数が集まらない事業もある。主催者側のマーケティング的なものによる市民のニーズを把握していくことも必要であろう。 ▶市民のニーズに合った内容を検討し、赤字を出さない運営の工夫をして欲しい。又支出については明瞭にして欲しい。 ▶市民に対する観客動員が弱いので広報の充実が優先課題か。
67	少年指導員会補助金	65	97	48	210	42	継続		<ul style="list-style-type: none"> ▶地道な活動であるが継続して欲しい。 ▶繰越金は多い。活動は市にとって重要なものである。 ▶少年犯罪が増えていくことへの防止に大変役立っていることと思う。今後も継続して補助を行うことにより、現代に合った指導方法の工夫と検討が必要。 ▶交付金額の見直しが必要か。
68	ガールスカウト補助金	55	111	42	208	41	継続		<ul style="list-style-type: none"> ▶隊員が少ないのは会費が高いことも理由か。世界的な組織でもあり活発な活動が望まれる。隊員増加が可能なら補助金増加も視野に入れるべき。 ▶団員の勧誘・活動のPRがもっと必要ではないか。 ▶活動は奉仕のみならず人材育成の観点からも重要度は高いが会員の増加が少ない。会員確保が当面の課題か。 ▶社会貢献及び自立のために人材育成はこれからの時代大変重要である。そのためには、今後会員の拡大に努力し多くの人材を育てるために補助金の有効活用を望む。 ▶積極的に会員増加に努めて、更に公共性を高めていくべきではないか。
69	ボーイスカウト補助金	55	111	42	208	41	継続		<ul style="list-style-type: none"> ▶隊員が少ないのは会費が高いことも理由か。世界的な組織でもあり活発な活動が望まれる。隊員増加が可能なら補助金増加も視野に入れるべき。 ▶団員の勧誘・活動のPRがもっと必要ではないか。 ▶活動は奉仕のみならず人材育成の観点からも重要度は高いが会員の増加が少ない。会員確保が当面の課題か。 ▶心身の練磨・社会の善良な公民となることを目的に作られた世界的な団体であり、今の時代大変重要に思われる。活動内容の充実を図り、様々な経験・体験を多くの子ども達ができるよう会員の拡大に努めることに使われることを望む。 ▶積極的に会員増加に努めて、更に公共性を高めていくべきではないか。
70	関東体育指導委員研究大会補助金	—	—	—	—	—	—	※平成20年度のみ補助	※平成20年度で終了

平成23年度 那須塩原市単独補助金等審査結果一覧

No	補助金等の名称	審査項目・評価得点					見直しの方向性	審査会附帯意見	その他参考意見
		目的妥当性・公益性	有効性・効率性	公平性	総得点	平均点			
71	議会政務調査費	61	91	38	190	38	改善	⇒補助の必要性はあるが改善すべき事項がある。 【附帯意見】 実績報告書に目的や成果の項目を載せるなど、調査の成果が市民にわかるような工夫を検討されたい。	▶重要な調査もあり市政にも反映されていると思うが、補助金ではなく議員人件費或いは議会費に政務調査費として計上し市民の眼に触れるようにすべきである。 ▶調査費を無くし、歳費を増額して普段から議員の資質向上、研修に努力願いたい。 ▶調査研究などの「費用」についての報告はあるが「結果」や「成果」の報告なども必要と思われる。 ▶視察研修は北海道・九州が多く、費用を多くかけている分、市民に還元することが必要不可欠である。儉約に努め有効に活用することを望む。 ▶研究調査の成果が一般市民にも見える様な工夫が欲しい。
72	那須塩原市国会等移転促進市民会議補助金	—	—	—	—	—	—	※平成20年度で終了	※平成20年度で終了